



# ミネソタ通信

第10号

2013年3月 日本ミネソタ会発行

## 目次

「日本ミネソタ会の活動のご報告」 会長 岩波はるみ

「ミネソタとミネソタ人と私」 福井明

「バンコク便り」 小菅 岳司

「ミネソタ州の留学事情」

「編集後記」

---

## 日本ミネソタ会の活動のご報告

日本ミネソタ会は、1984年にミネソタ所縁の発起人の方々のご尽力で発足しましたが、来年の2014年には、いよいよ30周年の記念すべき年を迎えます。歴代の会長および幹事の皆様、会員の皆様、そしてこれまで活動にご参加ご協力いただいた皆様に、心から感謝を申し上げます。

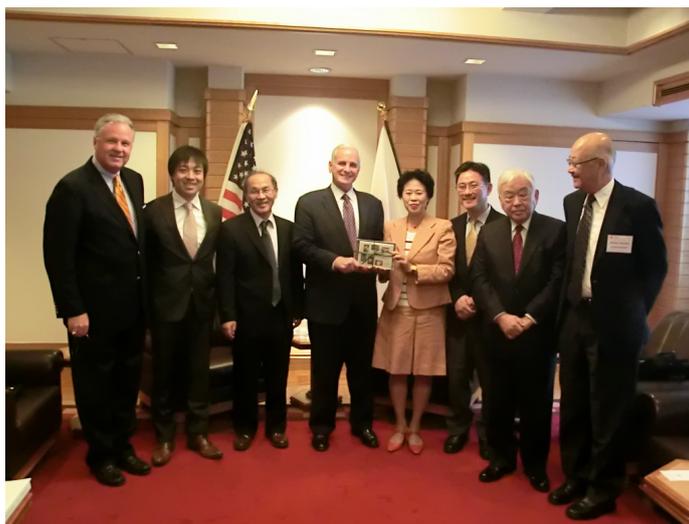
そして「ミネソタ通信」も、お蔭様で、いよいよ今号で10号を迎えました。これまでの発行にあたり、歴代編集長を務めてきた山口健一さん、ネットにまとめた村松秋彦さん、そして原稿をご提供くださった皆様に、厚く御礼もうしあげます。

さて、前回の「ミネソタ通信9号」の2010年11月以降、今日までの日本ミネソタ会の活動を以下にご報告とさせていただきます。

2010年12月には、クリスマスパーティーを、赤坂のレストラン、オーカバナルのparty roomを貸し切って行いました。森田伸さんからOPUS ONEや、山下宏さんからミネソタらしいデコイの寄贈等もあり、オークションで大変もりあがりました。この年は、9月に当時のポーレンティエ州知事とミネソタ貿易使節団を招いてのLuncheon Speech Partyを日米協会との共催で帝国ホテルにおいて開催し、日本ミネソタ会として「日本とミネソタの架け橋」という大事な役割を果たした年でもありました。

翌2011年は、お花見は「震災」のため中止といたしました。6月26日の赤坂ストックホルムで開催したSummer Party（総会&懇親会）には、たくさんの方にいらして頂き、和やかなひと時を持つことができました。また9月には、新任のデイトン州知事が来日され、その折に知事の日本滞在時間がわずかな中を、日本ミネソタ会の幹事一

同との面談時間を設けていただきました。12月のChristmas Party（柿安三尺三寸箸ヌーベル日比谷店で開催）では、サイレントオークションを実施し、ミネソタグッズやロッセ球団のマスコットなどが高値で落札され、その収益は日本赤十字社を通じて、震災の被災者の方に寄付いたしました。



昨年2012年は、3月31日「東京の桜開花宣言」の日に、靖国神社（基準木に数輪開花していることを参加者一同で確

認）でのお花見を皮切りに、6月23日にストックホルムでSummer Party(総会&懇親会)、12月5日に月島スペインクラブでChristmas Partyを開催いたしました。いずれも新しい参加者の方も増え、石田ご夫妻、米原ご夫妻等、ミネソタ州在住の方々のご参加もあり、老若男女で親しく交わる、大変楽しい時間となりました。そして2012年の最大のイベントは、10月2日～9日までの、日本ミネソタ会として設立以来初めての、「ミネソタツアー」の実施でした。沼形団長の下、総勢15名の参加となり、ミネソタ大同窓会の訪問、ミネソタ州貿易局への訪問、ミネソタ企業(AVEDA)への訪問、



ミネソタ日米協会との合同party等、盛りだくさんの充実した視察と、ミネソタの人々との交流を体験しました。カメラマンを務めてくださった八木澤仁氏によるFacebook (group member) への随時の投稿（ご覧いただき「いいね」をクリックしていただいた方々有難うございました）、Reporter&Writerをお願いした井尻晴久氏によってまとめられた「ミネソタ旅日記」（旅行中はず

っとタブレットを持参して、すべての出来事のメモをとっておられました）、そしてその臨場感あふれる井尻氏の文章が村松さんによってWebでいつでも見られるようになり、日本ミネソタ会の電腦化は留まるところを知らない有様です。

本年2013年の日本ミネソタ会も例年通り「お花見」からスタートいたします。3月30日（土）井の頭公園で開催します。また6月16日（日）開催予定のSummer Party（総会&懇親会）では、ミネソタに高校生留学を体験なさったことのある桜美林大学の馬越恵美子先生により、英語落語を企画しております。会場は、「高座」を設ける都合もあり、ピアシス渋谷を予定しております。

[http://www.piasis.jp/piasis\\_shibuya/index.html](http://www.piasis.jp/piasis_shibuya/index.html)

日本とミネソタの架け橋となる会として、これからも日本ミネソタ会をご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

2013年2月6日

日本ミネソタ会 会長 岩波はるみ

---

### 「ミネソタとミネソタ人と私」



昨年末12月5日（水）夜、私と家内は東京・中央区「月島スペインクラブ」を会場として開催の「日本ミネソタ会 クリスマスパーティ 2012年」に、私が昨年3月に定年退職した住友スリーエムでの同期入社で、Minnesotaから一時帰国していた長年の友人 石田卓三夫妻（元米国3M社勤務、現在Woodbury在住）と参加しました。

パーティ後半、日本ミネソタ会会長の岩波さんが用意された素晴らしい「お楽しみ抽選会」で、いつもは当たり前などしない私が何と「Writer」のくじを引いてしまいました。引いた瞬間に岩波さんが見せた“いたずらっ子”の様な笑いで、「しまった」と思っても後の祭り・・・今こうして私の「ミネソタへの想い」を綴っている次第です。

私と石田さんは1970年4月に米国3M社の日本法人 住友スリーエムに入社し、私はスタッフ部門に、石田さんは技術開発部門（相模原市）へ配属となりました。爾来、石田さんと私とは社内と一緒に仕事をした事はありませんが、1989年に私がコンシューマー マーケットグループ内の事業部門でマーケティング業務に従事していた際、米国3M社の同グループへ転勤を命ぜられ、St. Paulで再会する事ができました。そして、帰国までの2年強の間、子供達の教育のため毎週土曜日に通学をしていた「ミネソタ日本語補習校」－当時は Coon RapidsのCommunity Collegeを借用して開校－

で石田ご夫妻には大変お世話になりました。

私達家族は、WoodburyのTown houseに居を構え、子供達は英語の「エ」の字も知らずに、長女はWoodburyにあるElementary Schoolの3年生に、長男はモンテソーリ教育をしてくれるKindergartenに入学し、異国での生活が始まった次第です。子供達が1ヶ月、2ヶ月そして3ヶ月と経つ内に2人共、いつのまにか英語を話す様になり、それもアメリカ英語での発音で話をし始めたのには「驚き」ました。

一方の私は技術開発とは違い、マーケティング業務のため3M社 社内でアメリカ人の同僚、上司との話、プレゼンテーション、討論そして合意をして私の持つプロジェクトを進めて行かなければならない事から、やはり当初は“L”と“R”の発音違いを始めとして、語彙力等自分の「英語力不足」をいやという程感じさせられる毎日でした。



今その頃の事を思うとやはり若さという「力」があったからでしょう、全く苦とは思わずに、又3Mが持つ「Diversification促進の企業文化」に支えられ、人種に対する偏見も受けずに、仕事上では厳しい局面も多々ありましたが充実した毎日を送る事ができました。

おそらく、私の転勤期間は2年強で長いものではありませんでしたから、アメリカ人の同僚や上司達は、福井を気持ち良く日本に帰らせてやろうと思っていたのではないかと思います。これが、もし私がPermanent Statusでアメリカへ転勤してきたとすれば、私の同僚達にしてみれば競争相手が増える訳ですから、もっと私への「風当たり」は強かったと思いますし、又、もし3MがNew York city等「人種のるつぼ」的な都市に本社を構えていたならば、企業風土そのものが全く異なったものであったらと思います。

当時私の同僚や上司であったアメリカ人達は、その後3M社内で昇進を続けて行った者もいれば、退社し別の道を歩んで行った者もいますが、でもやはり昔の同僚という「絆」は大変強いと感じます。私は他の米国企業はどうか知りませんが、OBが個人株主となっている事もあり、3MはOBを大変丁寧に遇する企業ではないかと思いません。

米国3M社より日本に帰国後は、住友スリーエム元の部門に戻った後、社内で他部門

へ異動しましたが、大体毎年St. Paulへの出張がありましたので、元同僚や上司に会う機会は多い方でしたし、空港に降りるといつも「帰って来た」という感情を持ちました。

そうこうしている内に、私は42年間勤務した住友スリーエムでの定年を迎え、2012年3月に退職しましたが、その後に創立90年の歴史がある私の母校「学校法人 自由学園」の経営へ参画をして欲しいとの話が学園よりあり、昨年9月より常任理事・事務局長として現在フルタイムの職務に就いています。

これから自分で自由に使える「時間」が無くなるであろうとの思いから、9月からの職務に就く前の昨年8月末に慣れ親しんだ土地—St. Paulを家内と訪ねる事にし、その際昔の同僚達と連絡を取り合っている内に「Reunion Eventをやろうや」という話が出て、そのイベントを私のSt. Paul滞在中に開催する事になりました。

私達の様なリタイヤー組、転職組そして多くはありませんが現役組でSt. Paul近隣に在住する者30名強がLake Elmoにある3M福利厚生施設 “Tartan Park”に集合し、旧交を温めました。中には、Duluthより数時間のドライブをし駆けつけて来た友人、アメリカ人同士でも10数年も会っていなかった人もおり、それは—それは楽しい時間をこれらの友人達と持つことができました。

やはり会えば、その昔“ばりばり”と仕事をしていた若き時代にそれぞれが戻り、昔話に花を咲かせるという—万国共通の“シニア”すなわち“ビンテージ”同士の会話は大変楽しく、そして国を越えた友人をこれからも大事にしようと私自身が感じた次第です。

最後に、私のビール大好き友人の“ミネソタ人”らしい話題を二つ。

この友人は現役の3Mer（彼はハイレベルの役職者で、大学ではアメリカンフットボール選手）の話で、彼は数年前古い「消防車」—勿論動く—を友人と一緒に購入し、色を出身大学のカラーに色を塗り替えました。まあ、ここまではクラシックカー好きの人ならやりかねない事ですが、彼の場合はちょっと“スケール”が違いました。

彼がやった事は、「消防車」のwater tankに水の代わりに“ビール”をそれこそ大量に入れ、母校のアメリカンフットボール試合会場に持ち込み、放水する代わりに“ビール”を母校応援団に振る舞いました。この「消防車」は後に博物館に売却され、現在はそこに陳列されています。

もう一つは別の友人の話。この友人は“ゴルフ好き”で、ある日他の友人3人（この内の一人は私の元上司—Division Vice President）とゴルフプレーを楽



しましたーまあ、これもどこにでもある話ですが、何と彼らは、始めから最後までラウンド中（アメリカでは、日本のゴルフラウンドでは普通の昼食休憩を取らずに18ホール続けてプレー）に“ビール”を飲み続け、何と4人で合計96缶の“ビール”を消費、それこそ“へろへろ”になって帰路についたとの事です。

二つ共、“ビール好き”のミネソタ人についてのトピックスですが、家内共々聞きながら“大笑い”をさせてくれた楽しい話でした。

“Minnesota”にいと気持ちや和む一気候的には厳しい所ですが、やはり私にとりどうしても外せない場所です。“ありがとう Minnesota、ありがとう友達や連中、又来るね”といつも思う場所です。

福井 明

2013年1月13日記

---

## バンコク便り 小菅 岳司

バンコクでの生活を始めて5ヶ月が過ぎました。これまでのところは、乾季で気温も低めという比較的過ごしやすい時期でもあり、快適な生活を送っています。日本の本社から、バンコク事務所の駐在員として派遣されてきており、主な業務は、タイで始めた合併事業の設備立ち上げの事務的な側面からのサポート、東南アジアにおける新規事業案件の調査、あとは出張者のアテンドです。合併事業関連の業務は、合併相手との話し合いを通じて新しいこと決めていく作業が多く、なかなか大変ですがとても面白いです。

以下、全くとりとめがなくて恐縮ですが、バンコクで生活してみて気づいたことや考えたこと等をいくつか書いてみます。

### <Japan in Thailand>

在タイの日本国大使館に在留届を提出している日本人が約50,000人いるそうです。そのうちの約7割がバンコクに滞在。街を歩いているとかなりの高確率で日本人に出くわしますし、自分の感覚的にも日本人が多いなあと感じます。（日本人が良く行くような場所に私も行くからですが。。）ミネアポリスでは、街を歩いても日本人にはなかなか会いませんよね。また、バンコクには日

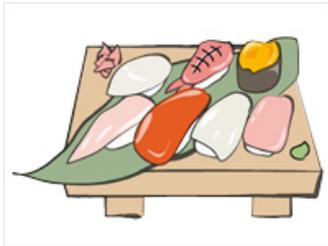


本食のレストランがとても多いです。日本食はヘルシー、という認識があるようで、タイ人の間でも人気があるとのこと。日本の食材が置いてあるスーパーもたくさんあ

りますし、バンコクで日本食で困ることはまずありません。

#### <酒類の販売規制>

タイの法律では、0:00-11:00および14:00-17:00の時間帯にスーパー、飲食店等での酒の販売ができないことになっています。また、仏教関係の祝日、選挙日の前夜から当日終日も酒の販売ができません。ホテルなどは規制の対象外となることもありますが、基本的にはかなり厳格に守られています。私が良く行くスーパーも、規制時間帯には酒コーナーに立ち入り禁止のポールが立っています。規制の理由については、飲酒運転による交通事故を減らすためとか、昼から酒を飲む習慣が問題だったためとか、あるいは、選挙ではきちんとした判断ができなくなるからとか、飲みすぎて



暴れるといけないとか、選挙に行かなくなるといけないから等々、いろいろと言われていますが、実際のところは良く分かりません。ただ、飲酒をしてはいけないというルールではないので、買ってストックしておいたものを飲む分には構わないようです。

#### <バンコク都知事選挙>

2013年3月3日はバンコク都知事選挙の投開票日でした。（ちなみに、上で書いたように、3月2日の午後6時より3月3日の深夜（日付が3月4日変わるまで）はレストラン、スーパー等で酒の販売ができなくなっていました。）前評判ではタクシン派（タイ貢献党）のポンサパット氏有利という噂が流れていましたが、結果は反タクシン派（民主党）のスカムパン氏が再選。インラック首相が率いる現在のタイの政府与党はタクシン派ですので、バンコク都との間では、ねじれ状態が続くこととなります。2011年の洪水の際は、この対立によって被害が拡大したとも言われています。

#### <ゴルフ>

ゴルファーにとってバンコクはまさに天国。バンコク周辺には多くのゴルフ場があり、近いところだと街の中心から車で30分くらい。1時間～1時間半も走ればよりどりみどり、という感じです。我々がよく行くようなゴルフ場は、プレーフィーがだいたい1,000～2,500バーツ。それにキャディーフィーが300バーツ、キャディーさんへのチップが200から300バーツといったところ（1バーツは約3円）。ゴルフ場で日本人を見かけないことはありえない、というくらい多くの日本人がゴルフを楽しんでいますね。雨季が終わり、暑くなるまでの10月～2月がベストシーズンです。

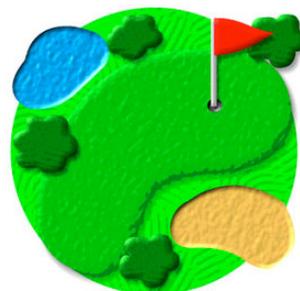
#### <冷房>

建物の中、乗り物の中はすごく冷房が効いていて、正直に言って「寒い」です。会議中に、長袖のワイシャツだけでは寒くて耐えられず、上着を着ることもしばしば。暑い国なので涼しくすることが良いこと（ステータス？）なのでしょうか。タイ人と話

をしても、冷房に関しては設定温度を上げることによるエネルギーの節約という考えはあまりないようです。ですが、いずれは「省エネ」を意識し、その方向に向かう時が来ると私は思います。

#### <Minnesota in Bangkok>

バンコクでのミネソタ関連の組織がないか探しているのですが、いまのところ見つかりません。どうやらそのような組織はなさそうな雰囲気でもあります。個人的には、バンコク赴任以降、カールソンスクールのタイ人の同級生に一度会いました。苦労を共にした同級生にミネソタとはまた違った場所で会ってビジネスの話ができるのはとても感慨深いです。あとはバンコクでお仕事をされている本山さんにもお会いすることができました（ミネソタ会長の岩波さんからのご紹介）。本山さんとは一度食事を、その後、ゴルフをご一緒させていただいたのですが、私のゴルフが酷いのでだいぶご迷惑をおかけしました。また、4月、5月には別のカールソン卒業生と会うことを計画しています。ミネソタ関係者を探し出してもっと輪を広げたいですね。



#### <最後に>

バンコクは私がバックパッカーをやっていた頃に何度も訪れた町で、大好きな町のひとつです。当時必ず宿泊していたカオサン通りの安宿がほとんど残っていないのが残念ではありますが、以前に訪れた場所に足を運んで懐かしんだりしながら、今バンコクに住めるのはとても幸せです。せっかくの機会なので、タイに限らず周辺国も含め、できるだけ多くの場所を訪れ、その土地の雰囲気を味わいたいと思っています。

---

### ミネソタ州の留学事情

「日本の海外留学生が減少している」等の記事やニュースを、近年目にすることが多く、日本ミネソタ会の皆様の中にも、ご憂慮なさっている方も多いことと思われま

す。果たして「ミネソタ」ではどうなのか？ミネソタ州最大規模の州立大学、ミネソタ大学に「留学生の現状」の数字を伺いましたので、この機会を利用してお伝えしたいと思います。

初めに、日本人留学生の人数です。

2012年は、合計で74名。内訳は学部生38名、大学院生19名、英語留学等のnon

degreeが17名。一昨年の2011年の合計計63名から増加したことは、とても望ましい方向です。ミネソタ大学が「交換留学制度」を締結している日本の大学は、現在5校（一橋大学、広島大学、名古屋大学、立命館大学、上智大学）ございます。

ただ、他のアジア諸国の学生と比べると、かなり少ない人数であることは否めません。ミネソタ大には、中国から2,309名、韓国から728名、インドから638名の留学生が在籍しております。

一方、ミネソタ大からは2013年2月現在、55名ほどの学生が日本に留学しているそうです。この数は、他のアジア諸国、中国へ147名、韓国へ21名、インドへ73名の数字と比べて、決して遜色はございません。実は、ミネソタ大は、2013年発表の最新調査で、最も海外へ留学生を送っている大学として、全米3位にランキングされました。総計2562名が海外で勉学に励んでいるそうです。

なお、日本ミネソタ会ではHPで、ミネソタ大のプログラム、GO Minnesotaをご紹介します。短期でアメリカ文化を学ぶプログラムや、高校生向けの企画もあり、とても興味深いものです。ぜひあわせてお読み頂ければ幸いです。

日本とミネソタの相互理解をより深めていくために、さらに多くの「留学生の交換」が実現していくことを願っており、微力ながら日本ミネソタ会も、その一助となればと思います。

---

#### 編集後記

ミネソタ通信も二桁の第10号となりました。ミネソタ会は来年で創立30周年ですので、おおよそ3年に1回の発行割合となります。私自身は1997年の第4号のお手伝いから携わっておりますので16年目の「通信」です。まさに光陰矢の如し。

これからも皆様に「ミネソタ話」をお届けすべく頑張りますのでよろしく願います。（山口）